

2025年度 高原環境財団 助成事業 活動報告書

心に森を育む、 子供たちの 環境学習活動



この事業は、2025年に岐阜県で開かれた「第42回全国都市緑化ぎふフェア」の会場及び周辺の地域において、子どもたちに“自然の中で学べる場”を提供しました。

ぎふワールド・ローズガーデン、百年公園、養老公園など、身近な公園を舞台に、専門団体が主体となって「体験して学べる場所」に変え、自然に触れながら、寄せ植え、フラワーアレンジメント、ツリークライミング、長期間の稲作体験など、多様なアプローチによる環境学習活動が実現しました。

子どもたちが実際に植物や自然に触れ、育てる喜びや命の尊さを学ぶことで、緑化への理解と自然環境を大切にする心を育む素晴らしい取り組みとなりました。

活動報告(1): 寄せ植えを親子で楽しもう(寄せ植え華道協会)

可児市の「ぎふワールド・ローズガーデン」および美濃加茂市の「ぎふ清流里山公園」において実施された本ワークショップは、寄せ植えを通じて植物の「命の尊さ」を親子で共有することを目的としています。植物の成長過程や日常の管理方法を学び、自分たちの手で「小さな庭」を創り出す体験は、命への慈しみを育む第一歩となりました。

- 主催: 寄せ植え華道協会
- 実施日: 2025年5月3日、4日、24日
- 場所: ぎふワールド・ローズガーデン 体験工房、ぎふ清流里山公園 飛驒路
- 参加者数: 合計 子供92名、保護者127名

本プログラムは、事前広報の段階から極めて関心が高く、当日受付開始後、瞬く間に定員に達しました。特筆すべきは、作業中に子どもたちが保護者の助けを待つことなく、自ら進んで苗を選び、土に触れ、配置を決めていく「主体性」が顕著に見られたことです。

また、ぎふ清流里山公園では通路から活動が目に入る環境で実施したことで、参加者以外の方々にも寄せ植えの魅力を広く発信する「緑化の普及啓発」という副次的な価値も創出されました。



活動報告(2):寄せ植えを親子で楽しもう(関寄せ植えサークル)

「岐阜県百年公園」を舞台に開催された本企画は、プロの技術と子どもたちの体験を融合させた点が最大の特徴です。単なる園芸体験に留まらず、完成された美(手本)を知ることで、植物の造形美に対する感性と、より深く学びたいという知的好奇心を刺激することを狙いとしました。

- 主催: 関寄せ植えサークル
- 実施日: 2025年5月17日~18日
- 場所: 岐阜県百年公園 北口広場
- 参加者数: 合計 子供71名、保護者82名

事前の申し込み者が1人も欠けることなく参加した事実は、本事業への期待感の高さを示しています。会場には「寄せ植え華道正師範認定講師」による自転車型プランター等の高度な作品が展示され、多くの子どもたちが「どうすればこんなに綺麗に作れるの?」と熱心に講師へ質問を投げかけていました。

優れた見本に触れることが、体験学習を「憧れを伴う技術習得」へと昇華させ、寄せ植えの奥深さを理解させる極めて高い教育効果をもたらしました。



活動報告(3):花と遊ぼう！花のある暮らし（日本フラワーデザイナー協会 岐阜県支部）

養老公園で開催された本プログラムでは、梅雨の強い雨という天候変化に柔軟に対応し、屋内での「マジカルブーケ」体験へと切り替えて実施されました。フラワーデザインを通じて自然の美しさを学ぶと同時に、持続可能な社会を支える仕組みについて理解を深めることを目的としています。

- 主催：（公社）日本フラワーデザイナー協会 岐阜県支部
- 実施日：2025年6月14日
- 場所：養老公園
- 参加者数：子供70名、保護者52名

障がい者就労支援施設で製造された「環境配慮型容器（石油由来製品を極力使用しない紙コップ・紙皿の再構成品）」を採用し、子どもたちが、自分たちが使う器がどこで、誰によって、どのような思いで作られたかの説明を受け、環境と社会の繋がりに想いを馳せました。

また、緑化フェアの波及効果により、三重県、滋賀県、さらには横浜市といった遠方からの参加者も見られ、500円という安価な設定が幅広い層へのアクセスを可能にした点も高く評価されます。



活動報告(4):ツリークライミング®体験会(全国1級造園施工管理技士の会)

本プログラムは、全国1級造園施工管理技士の会による専門的な知見と地域団体の協力が融合したことで、単なるレクリエーションに留まらない、体験を通じて森林の重要性に対する理解を深める、「心に残る活動」として、子供たちの感性に訴えかける教育効果を得るために実施されました。

- 主催:全国1級造園施工管理技士の会
- 実施日時: 2025年12月7日(日) 9:30~12:30
- 実施場所: 道の駅花街道つけち公園(岐阜県中津川市付知町8581-1)
- 参加者数: 合計 子供11名
- 実施協力: 恵那山ネイチャーゲームの会、花街道つけち、ツリーウォークーズ、中津川森の木遊館

本活動は恵那山ネイチャーゲームの会の協力のもとで開催されました。青空の下、参加した子どもたちは葉っぱを使ったネイチャーゲームを楽しんだほか、大きなケヤキの木と友だちになってツリークライミングを体験しました。

実際に木に登り自然と触れ合うこれらの体験を通じて、子どもたちが森の大切さを理解し、心に残る環境学習活動となりました。



活動報告(5):花育体験とプチ稲作体験(岐阜県園芸福祉協会)

養護施設「夕陽ヶ丘」において実施された本プログラムは、飛騨支部が中心となり、子どもたちが毎日口にする「お米」を自ら育てるバケツ稲作を中心とした、戦略的な長期環境学習プロジェクトです。自然の摂理を体感し、忍耐強く生命に向き合う心の成長を促しました。

- 主催: (特非)岐阜県園芸福祉協会(飛騨支部)
- 事業期間: 2025年5月1日~12月31日
- 参加者数: 合計 子供182名、保護者13名
- 内容: 花育体験とプチ稲作体験

活動開始当初、子どもたちにとって「目の前の小さな苗」と「毎日食べている白いご飯」は全く結びついていませんでした。しかし、4リットルの田土と4リットルの培養土を混ぜ合わせた8リットルの土作り、5月の田植え、そして6月の「アオミドロの大量発生」といった困難への対応を経験することで、自然の厳しさと生命の逞しさを実体験として蓄積しました。アオミドロを網ですくい取る試行錯誤は、単なる「作業」ではなく、環境を管理することの難しさを学ぶ貴重な「学びの瞬間」となりました。

分けつの観察を経て「米＝植物の命」であることを確信した子どもたちの姿は、長期観察学習ならではの深い成果です。



活動報告(6):グリーンライフ推進事業による多層的な緑化啓発 (岐阜県立国際園芸アカデミー)

本事業は、「全国都市緑化ぎふフェア」の理念を地域に浸透させるべく、幼児から高齢者までを網羅した多角的なチャネルを構築しました。全プログラムを通じて、延べ420名を超える住民が参加し、地域全体の環境意識をボトムアップさせる戦略的展開を見せました。

- 主催:岐阜県立国際園芸アカデミー
- 実施日時: 2025年4月1日~2026年2月26日
- 参加者数: 合計 子供200名

幼児から大人まで幅広い世代を対象に、多岐にわたるプログラムが実施されました。

生涯学習講座: 一般から募集した親子を対象に、切花の収穫から行う花束作り、ハーバリウム、多肉植物のアレンジメント、現代的なしめ縄リース作りを実施しました。

花と緑の連携授業: 当学園の教員が恵那農業高校や郡上高校へ出向き(出前授業等)、高校生にハーバリウムやフラワーアレンジメント、ラウンドブーケ、コサージュなどの制作を指導しました。

学園祭での体験: 学園祭の一般参加者(子どもから大人)に向けて、フラワーアレンジメントや苔玉製作の体験指導を行いました。

花育講座・その他の講座: 今渡北小学校の児童やかわい幼稚園の園児を対象としたクリスマスアレンジメント制作のほか、岐阜市畜産センターでのリース制作、市役所等でのフラワーバレンタインをテーマにした花束制作などを展開しました。

